俳句は謡うものである（一）

伊藤洋二

滑稽俳句論壇への執筆依頼がありました。しかも三回に亘り掲載願いたき旨の正式文書を頂き、「頼まれるうちが華」と決意致しました。論壇とは自分の考え方を述べる処と解釈し、無知無見識を顧みず一寸「評論家」の気分を味わせて頂きます。

私の俳句に対するコンセプトは「謡」です。そこで、趣味である「浪曲」「演歌」「クラシック」との一考察を始めます。参照させて頂く場合、その出所を詳しく明記すべき処、概略付記と致しますこと滑稽に免じてご容赦願います。

【其の一：　俳句と浪曲】

皆々様ご存知の「虎造節保存会」にて、二代目広沢虎造師匠の「森の石松三十石船道中」を教材に唸っております。浪曲は「一声二節三啖呵」という通り、演芸の極みであると考えます。さて本題の俳句との取り合わせですが、教本の中より素晴らしい文言を並べてみます。

酒を飲むなと睨んで叱る　　七　七
船は浮きもの流れもの　　七　五
待てば海路の日和あり　　七　五

如何ですか。いいリズムですね。身も心もウキウキしてきませんか。しかも、曲師さんによる三味線がバックコーラスです。今日も気分はバラ色です。滑稽俳句にもこのリズムが肝心であると確信しております。楽しい俳句は謡えるからです。しかし、浪曲を人様の前で唸ることには相当の「無頓着と勇気」が必要です。どのように思われているかと想った瞬間に、喉仏様は無言の行に入られます。ではどのようにするか。「自分が想うほど他人さまは思っていない」と錯覚することです。勿論反対の場合もありますね。例えば恋愛です。知らないうちに愛されている。早く気が付けば…、こんなことには？

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

本題に戻ります。先般の第三回滑稽俳句協会報年間賞では、「初メロンかも知れぬこの不在票」の句で、「人」賞を頂きました。八木会長の選評に敬服いたしております。「『つぶやき』には作為がない」「脳裏に浮かんだことを描く」。ついつい推敲で捻り廻していませんか。浪曲は後戻りできません。良いひらめきが推敲のうちに往復切符を買っているのです。さあ入選への片道切符を握りしめませんか。

正岡子規先生の俳句を拝借致します。「秋風や高井のていれぎ三津の鯛」大変好きな素晴らしい句です。先生は声を出されて詠まれたのでしょうか。多分病床で独り懐かしい松山を遠く望みつつ、きっと呟かれたと拝察致します。失礼を承知で何時か浪曲の節回しで鑑賞させて頂き度いものです。

〈お知らせ〉私の愚論にご興味を持って頂いた貴殿、貴女の皆様、滑稽俳句協会のホームページの関連サイトにありますので「虎造節保存会」をクリック頂ければ幸甚に存じます。〝丁度時間となりました　ちょっと一息願いまして又のご縁と御預かり〟　　（続く）

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。